

会長就任のご挨拶

別府史談会 会長 友永 植



本年度、図らずも「別府史談会」の会長という大任を仰せつかりました。前会長後藤重巳先生のご重責を引き継ぐことの重さを痛切に感じています。昨年四月、敬愛する後藤先生が亡くなられたことは痛恨の極みですが、先生のご恩に報いるためにも託された責務を全うするよう努める所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は別府（朝見町）の出身で、学生時代を県外で過ごしました。その後、幸いに別府大学に職を得て、ふる里に戻って参りました。別府の地で育てられた私は、郷土に対する恩返しの意味で、別府の発展に些かでも寄与したいという思いを持っていました。この度、「別府史談会」に加えていただいたことで、郷土の歴史・文化への関わりを通して、この願いを叶えることができることを幸いに思っています。

昨年六月と十一月に本会恒例の史跡探訪を実施しました。その折訪れた大谷光瑞の西本願寺別院（別府市）あるいはペトロ口部カスイの資料館（国見ふるさと展示館）に見る如く、別府あるいは大分の地は、日本や世界の歴史に直接結びつく貴重な文化的資産を擁しています。このような郷土の歴史や文化を掘り起こし顕彰することは、現在の私たちのみならず、将来を担う若者たちの郷土への誇りを育む上で、大変重要な務めであると思っております。本会の会則も、会の目的を「郷土を知り、愛郷心を養う」と謳っています。私も非力ではありますが、会員の皆様とご一緒にそのような務めを果たしていきたいと思っております。

さて、今年「ひつじ年」です。正確に言う「歳在乙未（歳は乙未に在り）」、「つまり歳星（木星）が天空の乙未（きのとひつじ）の座標に在る年です。このように「ひつじ」は干支では「未」と書きますが、白川静博士の『字統』によれば、その字形は「木の枝葉の茂りゆく形」であるといえます。また、漢字の「羊」は示偏を付ける「祥」に通じ、「善」の意味があるといえます。年頭に当たり、今年が会員の皆さまおよび本会にとりまして、文字通り栄えゆくよい年になりますようお願いいたします。